

参考資料

- 歯周病検診について
- 基本目標項目の評価一覧
- 歯科口腔保健の推進に関する基本的事項
目標項目の評価結果（国の最終評価結果）

歯周病検診について

厚生労働省より2015年(平成27年)に「歯周病検診マニュアル2015」が改訂通知あり

その中で、CPI(地域歯周疾患指数)の測定に変更され、WHOから新たに示された改定法に準拠して測定を行うが、集団検診等の特性等を勘案し、対象歯は改定CPI法で提示された全歯ではなく指定の特定歯(6分画(17~14、13~23、24~27、47~44、43~33、34~37)の各分画の代表歯(6か所)とする。

【参考】CPIの判定基準

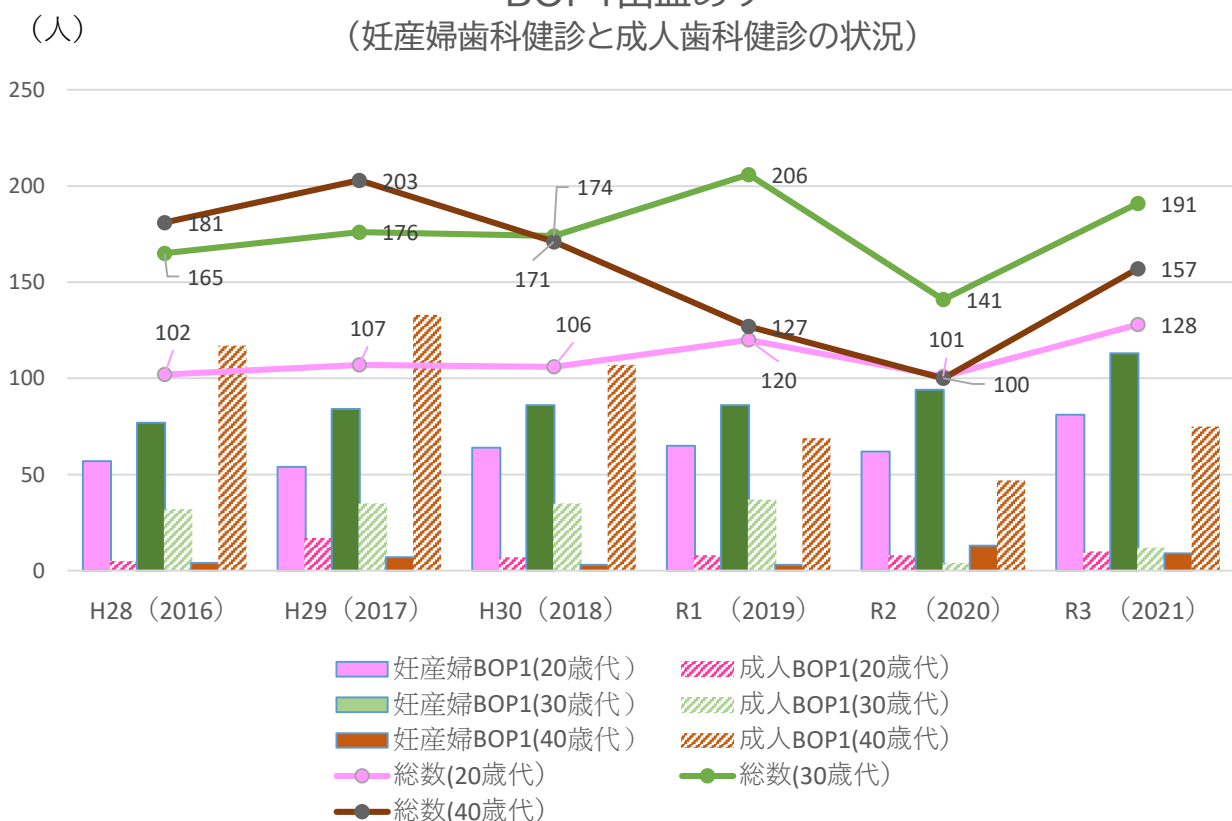
歯肉出血 (BOP)	コード	所見
	0	健全
	1	出血あり
	9	除外歯
	×	該当する歯なし

※妊婦歯科健診開始：H20年度、産婦歯科健診追加:H22年度～(妊産婦歯科健診となる)

	妊産婦 BOP1(20歳 代)	成人 BOP1(20歳 代)	総数(20歳 代)	妊産婦 BOP1(30歳 代)	成人 BOP1(30歳 代)	総数(30歳 代)	妊産婦 BOP1(40歳 代)	成人 BOP1(40歳 代)	総数(40歳 代)
H28 (2016)	57	5	102	77	32	165	4	117	181
H29 (2017)	54	17	107	84	35	176	7	133	203
H30 (2018)	64	7	106	86	35	174	3	107	171
R1 (2019)	65	8	120	86	37	206	3	69	127
R2 (2020)	62	8	101	94	4	141	13	47	100
R3 (2021)	81	10	128	113	12	191	9	75	157

成人歯科健診で歯肉に炎症所見を有する者(人) BOP1出血あり

(妊産婦歯科健診と成人歯科健診の状況)



基本目標	1 歯科疾患の予防						
具体的指標	策定時の ベースライン	中間評価 2017(H29)年 実績値	中間評価 目標値	最終評価 2021(R3)年 実績値	最終評価 目標値	中間 評価	最終 評価
ア 健全な歯・口腔の育成							
a) 3歳児でむし歯のない者の割合の増加	71.4 H23	83.3	81	86.3	90	a	B*
指標	a) 3歳児でむし歯のない者の割合の増加						
調査名	3歳児健診、全数調査						
算出方法	(むし歯でない人数)÷(受診者数)×100						
受診者数	2,234	2,158		1326			
イ 口腔状態の向上							
b) 12歳児でむし歯のない者の割合の増加	57.8 H23	69.9	61	73.1	65	a	A
指標	b) 12歳児でむし歯のない者の割合の増加						
調査名	市学校定期健康診断での永久歯の状況調査、全数調査						
算出方法	(むし歯でない人数)÷(受検者数)×100						
受診者数	2,524	2,311		2210			
c) 14歳で歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	29.9 H23	20.7	27	23.5	20	a	B*
指標	c) 14歳で歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少						
調査名	市学校定期健康診断での永久歯の状況調査、全数調査						
算出方法	GO要観察者率(%) + G要治療者率(%)						
受診者数	2,458	2,304		1446			
d) 17歳で歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	31.1 H23	27.5	28	18.6	25	a	A
指標	d) 17歳で歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少						
調査名	市学校定期健康診断での永久歯の状況調査、全数調査						
算出方法	GO要観察者率(%) + G要治療者率(%)						
受診者数	1,683	1,635		2238			

基本目標	1 歯科疾患の予防						
具体的指標	策定時の ベースライン	中間評価 2017(H29)年 実績値	中間評価 目標値	最終評価 2021(R3)年 実績値	最終評価 目標値	中間 評価	最終 評価
ウ 健全な口腔状態の維持							
e) 20歳代で未処置歯を有する者の割合の減少	58.6 H21~H23	44.5	52	44.2	45	a	A
指標	e) 20歳代で未処置歯を有する者の割合の減少						
調査名	佐世保市成人歯科健診(このうち20-29歳が対象)						
算出方法	(未処置歯を有する人数)÷(受診者数)×100						
受診者数	380	107		129			
f) 40歳代で未処置歯を有する者の割合の減少	42.5 H21~H23	42.6	26	36.3	10	b	C
指標	f) 40歳代で未処置歯を有する者の割合の減少						
調査名	佐世保市成人歯科健診(このうち40-49歳が対象)						
算出方法	(未処置歯を有する人数)÷(受診者数)×100						
受診者数	280	185		157			
g) 20歳代で歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	53.2 H21~H23	65.5	48	73.4	42	d	D
指標	g) 20歳代で歯肉に炎症所見を有する者の割合						
調査名	佐世保市成人歯科健診(このうち20-29歳が対象)						
算出方法	(歯肉に炎症所見を有する人数)÷(受診者数)×100						
受診者数	380	107		129			
h) 40歳代で進行した歯周炎を有する者の割合の減少	51.7 H21~H23	49.5	43	39.5	35	a	B
指標	h) 40歳代で進行した歯周炎を有する者の割合の減少						
調査名	佐世保市成人歯科健診(このうち40-49歳が対象)						
算出方法	(進行した歯周炎を有する人数)÷(受診者数)×100						
受診者数	280	183		157			
i) 40歳で喪失歯のない者の割合の増加	71.2 H21~H23	80.6	76	85.7	80	a	A
指標	i) 40歳で喪失歯のない者の割合						
調査名	佐世保市成人歯科健診(このうち35-44歳が対象)						
算出方法	(喪失歯のない人数)÷(受診者数)×100						
受診者数	306	215		223			

基本目標	1 歯科疾患の予防						
具体的指標	策定時の ベースライン	中間評価 2017(H29)年 実績値	中間評価 目標値	最終評価 2021(R3)年 実績値	最終評価 目標値	中間 評価	最終 評価
Ⅰ 歯の喪失予防							
j) 60歳代で未処置歯を有する者の割合の減少	36.5 H21~H23	34.7	23	37.9	10	d	C
指標	j) 60歳代で未処置歯を有する者の割合の減少						
調査名	佐世保市成人歯科健診(このうち60-69歳が対象)						
算出方法	(未処置歯を有する人数)÷(受診者数)×100						
受診者数	1,168	424		214			
k) 60歳代で進行した歯周炎を有する者の割合の減少	71.6 H21~H23	63.5	65	58.9	59	a	A
指標	k) 60歳代で進行した歯周炎を有する者の割合の減少						
調査名	佐世保市成人歯科健診(このうち60-69歳が対象)						
算出方法	(進行した歯周炎を有する人数)÷(受診者数)×100						
受診者数	1,168	416		214			
l) 60歳で24本以上の自分の歯を有する者の割合の増加	62.6 H21~H23	73.7	66	86.1	80	a	A
指標	l) 60歳で24本以上の自分の歯を有する者の割合の増加						
調査名	佐世保市成人歯科健診(このうち55-64歳が対象)						
算出方法	(24本以上の自分の歯を有する人数)÷(受診者数)×100						
受診者数	859	297		188			
m) 80歳で20本以上の自分の歯を有する者の割合の増加	35.9 H21~H23	66.0	43	59.1	60	a	B
指標	m) 80歳で20本以上の自分の歯を有する者の割合の増加						
調査名	佐世保市成人歯科健診(このうち75-84歳が対象)						
算出方法	(20本以上の自分の歯を有する人数)÷(受診者数)×100						
受診者数	353	65		22			

基本目標	2 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上						
具体的指標	策定時の ベースライン	中間評価 2017(H29)年 実績値	中間評価 目標値	最終評価 2021(R3)年 実績値	最終評価 目標値	中間 評価	最終 評価
オ 口腔機能の獲得							
n) 3歳児での不正咬合などが認められる者の割合の減少	10.9 H23	10.5	10.5	14.0	10	c	D
指標	n) 3歳児での不正咬合などが認められる者の割合の減少						
調査名	3歳児健診						
調査対象	全数調査						
算出方法	(不正咬合ありの人数)÷(受診者数)×100						
受診者数	2,234	2,158		1326			
カ 口腔機能の維持・向上							
o) 60歳代で咀嚼に支障がない者の割合の増加	87.4 H25	93.4	-	95.3	98	e	B*
指標	o) 60歳代で咀嚼に支障がない者の割合の増加						
調査名	佐世保市成人歯科健診問診						
調査対象	60-69歳						
算出方法	(現在、なんでも噛んで食べることができると回答した人数)÷(回答者数)×100						
受診者数	436	423		212			

基本目標	3 定期的に口腔保健サービスを受けることが困難な者に対する歯科口腔保健						
具体的指標	策定時の ベースライン	中間評価 2017年実績値	中間評価 目標値	最終評価 2021(R3)年 実績値	最終評価 目標値	評価 (中間)	評価 (最終)
キ 定期的な口腔保健サービスの推進							
p) 障がい児でかかりつけ歯科医を持つ者の割合の増加	57.4 H23	61.5	66	63.1	75	b	C
指標	p) 障がい児でかかりつけ歯科医を持つ者の割合の増加						
調査名	子ども発達センター受診者対象のお口の健康に関するアンケート						
調査対象	初診時アンケート調査						
算出方法	(かかりつけ有の人数)÷(アンケート回収数)×100						
受診者数	104	115		149			
q) 障がい者でかかりつけ歯科医を持つ者の割合の増加	66.2 H18	72.2	71	76.5	75	a	
指標	q) 障がい者でかかりつけ歯科医を持つ者の割合の増加						
調査名	在宅障がい者に対する歯科保健に関するアンケート						
調査対象	2016年から障がい福祉サービスを在宅で利用する時に必ず添付されている 勘案事項調査票						
算出方法	(かかりつけ有の人数)÷(回答数・勘案事項対象人数)×100						
受診者数	334	774		537			
r) 介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率の増加	29.6 H25	-	40	37.0	50	b	
指標	r) 介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率の増加						
調査名	佐世保市高齢者の入所施設における歯科口腔保健事業に関する実態調査						
調査対象	全数調査						
算出方法	(定期的な歯科検診実施施設の数)÷(施設数)						
受診者数	27	29		29			
s) 障がい者(児)の入所中の施設での定期的な歯科検診実施率の増加	75.0 H25	-	100	42.9	100	d	
指標	s) 障がい者(児)の入所中の施設での定期的な歯科検診実施率の増加						
調査名	佐世保市障がい者の入所施設における歯科口腔保健に関する実態調査						
調査対象	全数調査						
算出方法	(定期的な歯科検診実施施設の数)÷(施設数)						
受診者数	8	8		7			

【歯科口腔保健の推進に関する基本的事項目標項目の最終評価】

歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の策定の趣旨・経過

国では、口腔の健康の保持・増進が、健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たしていること等を背景に、平成 23（2011）年に「歯科口腔保健の推進に関する法律」が公布・施行された。この法律に基づき、平成 24（2012）年に「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」（以下「基本的事項」という。）が策定された。

この基本的事項の計画期間については、当初、策定から 10 年としていたが、健康日本 21（第 2 次）等の他の計画期間と合わせるため、1 年延長して令和 5（2023）年度末までとした。これに伴い、次期の基本的事項については、令和 6（2024）年度から実施する予定としている。

具体的指標の評価状況

◎ 結果の概要（全体の目標達成状況の評価）

全 19 項目について、各々の内訳は、A 評価（目標値に達した）は 2 項目（10.5%）、B 評価（現時点で目標値に達していないが、改善傾向にある）は 6 項目（31.6%）（うち、目標設定年度までに目標達成見込みである目標は 4 項目（19.0%）、目標設定年度までに達成が危ぶまれる項目（B* 評価）は 2 項目（10.5%）、C 評価（変わらない）は 1 項目（5.3%）、D 評価（悪化している）は 1 項目（5.3%）、E 評価（評価困難）は 9 項目（47.4%）であった。

評価（策定時のベースライン値と直近の実績値を比較）	項目数
A 目標値に達した	2（10.5%）
B 現時点で目標値に達していないが、改善傾向にある B* Bの中で目標年度までに目標到達が危ぶまれるもの	6（31.6%） （内（10.5%））
C 変わらない	1（5.3%）
D 悪化している	1（5.3%）
E 評価困難	9（47.4%）
合計	19（100%）

基本的事項（具体的指標）最終評価 結果一覧

項目	評価
1. 歯科疾患の予防	目標全体の評価 : E
(1) 乳幼児期	
① 3歳児でう蝕のない者の割合の増加	B
(2) 学齢期	
① 12歳児でう蝕のない者の割合の増加	A
② 中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	E※1
(3) 成人期	
① 20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	A
② 40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	E※1
③ 40歳の未処置歯を有する者の割合の減少	E※1
④ 40歳で喪失歯のない者の割合の増加	E※1
(4) 高齢期	
① 60歳の未処置歯を有する者の割合の減少	E※1
② 60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少 ※2	E※1
③ 60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加※2	E※1
④ 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加※2	E※1
2. 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上	目標全体の評価 : D
(1) 乳幼児期及び学齢期	
① 3歳児で不正咬合等が認められる者の割合の減少	D
(2) 成人期及び高齢期	
① 60歳代における咀嚼良好者の割合の増加	C

項目	評価
3. 定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健	目標全体の評価 : B*
(1) 障害者・障害児	
① 障害者支援施設及び障害児入所施設での定期的な歯科検診実施率の増加	B*
(2) 要介護高齢者	
① 介護老人福祉施設及び介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率の増加	B*
4. 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備	目標全体の評価 : B
① 過去 1 年間に歯科検診を受診した者の割合の増加※2	E※1
② 3 歳児でう蝕がない者の割合が 80%以上である都道府県の増加※2	B
③ 12 歳児の一人平均う歯数が 1.0 歯未満である都道府県の増加※2	B
⑤ 歯科口腔保健の推進に関する条例を制定している都道府県の増加	B

※1 新型コロナウイルス感染症の影響でデータソースとなる調査が中止となった項目

※2 中間評価時点で目標を達成したため、目標値を再設定した項目